



研究者名※	木村覚	学位※	博士
所属※	人間社会学部 文化学科	職名※	教授
連絡先	kimuras@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	<a href="https://researchmap.jp/read0141334">https://researchmap.jp/read0141334</a>		
研究分野※	人文学		
研究キーワード※	美学、芸術哲学、舞台芸術論		
共同研究・競争的資金等の研究課題	「ダンス史に残るマスターピース再現プロジェクト」(日本女子大学総合研究所、研究課題64、2016-2018)		
社会貢献・産学官連携活動等	「音で観るダンスのワークインプログレス」でのモデレーター(KAAT、2017、2018、2021) 市原佐都子/Q「妖精の問題 デラックス」でのドラマトゥルク(ロームシアター京都、2021-2022)		
受賞歴	美術出版社主催第12回芸術評論賞募集で「踊ることと見えること 土方巽の舞踏論をめぐって」入選(2003)		

研究領域	美学、芸術哲学	(SDGs)
研究テーマ※	笑いと社会の連関をめぐる研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>『笑いの哲学』(2020)執筆を通して、笑いと社会との関連に目を向けてきた。笑いは人と人が織りなす空間の中で生まれるものであり、そこに集う人々が社会の掟とどう付き合うかがその空間の成り立ちに大きな影響を及ぼしている。笑いは状況に依存し、その状況を形作る人間たちに依存している。笑いは差別的にも映ると同時に、差別の克服にも寄与する。『笑いの哲学』では、こうした問題を哲学者たちの笑い論に向き合うことで取り組んでみた。今後は、笑いをめぐる社会の状況を様々な現場(お笑い、舞台芸術など)に取材・調査することで、より具体的に、より精緻に考察していこうと考えている。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>『笑いの哲学』刊行以後、すでに職場環境での笑いの問題をめぐる対話(リクルートワークス研究所)、また市原佐都子/Q「妖精の問題 デラックス」上演に際してのドラマトゥルクとしての協力(ロームシアター京都)など、先述したような「現場」に取材・調査する取り組みは始まっている。今後も、精力的に、笑いをめぐる現場に入り、その場が持つ課題に目を向けていきたい。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <p>「笑い」という事象への哲学的探究と「笑いの空間」への批評的アプローチ</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木村覚『笑いの哲学』(講談社、2020)</li> <li>・木村覚「社会の「掟」を反転させるユーモリストを増やしていこう」(機関紙 Works166、2021)</li> </ul>	
共同研究・外部機関との連携への期待	・「笑い」をめぐる課題を感じている空間(学校、劇場、メディアetc.)との共同研究	